

No.521

とやまけん ぜつめつき くしゆ
富山県の絶滅危惧種・コオイムシ

イクメンな水生昆虫

コオイムシは池や田んぼなどに住むカメムシの仲間です。体は五円玉ほどの大きさで、平たく、茶色をしています。カマキリのように前脚を使い、巻貝などの水の中にいる生き物を捕まえて食べます。名前は「子を背負う虫」という意味です。メスがオスの背中に卵を産みつけ、オスは卵が孵るまで、乾いてしまわないように世話をします(図1)。



図1 たくさんの卵を背中に乗せたコオイムシのオス。

富山県の絶滅危惧種

富山県では少なくとも今から70年くらい前まではあちこちで見られたようですが、今も生き残っているのは富山市と魚津市にある2か所だけです。水が汚れたことや、田んぼの水はけがよくなり、この虫が好きな水たまりができにくくなったことが減った理由と考えられています。絶滅させないためには、今の生きているところの環境が変わらないようにし、また、個体数を定期的に調べる必要があります。



図2 コオイムシ⑤とオオコオイムシ⑥。コオイムシの方が一回り小さく、前脚が細く、頭と胸の境目のくぼみが弱い、特徴がわかりづらい個体もある。

富山にはコオイムシとよく似た普通種、オオコオイムシ(図2)がいるので、正しく見分ける必要があります。見た目でもある程度区別できますが、確実なのは解剖によるオス交尾器の確認やDNA鑑定です(図3)。最近では手軽に良い写真が撮れるようになりましたが、詳しい観察をする時は捕まえて標本にすることが必要です。採り過ぎはいけませんが、「ムシは採らなきゃよくわからない」ということもぜひ知っておいてください。



図3 コオイムシ⑤とオオコオイムシ⑥のオス交尾器。コオイムシは先端がカギ状、オオコオイムシはS字になる。

(岩田 朋文)

今月のかがくのギモン：昆虫採集すると虫がいなくなってしまうのでは？
(答えは当館ホームページを見てください)



PDF